

同じ患者さんが 原因不明の消化器症状で 繰り返し来院 されていませんか？



激しい腹痛・
嘔吐・下痢



その症状、 HAE[※]によるものかもしれません

激しい症状が繰り返されるにもかかわらず、確定診断に至らないケースがあります*1

HAE患者さんのほとんど(93%)が腸管の浮腫に起因する“腹部発作”を経験しています*2

*1 Ohsawa I, et al. BMC Gastroenterol. 2013; 13: 123.

*2 Bork K, et al. Am J Med. 2006; 119(3): 267-274.

HAE(遺伝性血管性浮腫)とは

診断率

約16%

(400/2,500)¹⁾

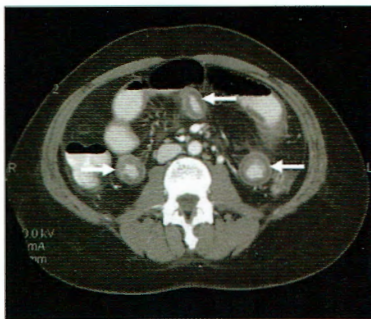
家族性に血管性浮腫を生じる疾患で、発症頻度は5万人に1人程度。実臨床で診断・治療する機会が少ないなど、診断に難渋するため、診断まで平均13.8年を要すると言われています^{2)、3)}

消化管に浮腫を生じると激しい腹痛が起こることがあり、未診断の場合、不要な開腹手術となるケースがあります^{2)、3)}

時に致死性の喉頭発作に移行し、発作からわずか数時間で窒息にいたると報告されており、早期診断が求められています⁴⁾

HAE患者さんの早期診断のために 先生のお力が必要です

HAEの主な臨床的特徴



小腸壁の肥厚と粘膜下浮腫のCT画像⁵⁾

- 皮膚や粘膜深部に一過性の浮腫を生じ、浮腫の発作は顔面や口唇、四肢、消化管などのさまざまな部位に繰り返す³⁾
- HAE患者の93%が腸管の浮腫に起因する腹部発作を経験する⁶⁾
- 腹部発作では、けいれん痛のような激しい腹痛、嘔吐、下痢を伴う⁷⁾
- 腹痛は急速に出現、増悪し、通常2、3日で自然寛解するが⁷⁾、消化器症状は将来皮膚や気道症状に発展する可能性がある⁸⁾
- 重症なケースではショックや意識障害、テタニー、血便、腸重積を生じる⁷⁾
- 発作は精神的・肉体的ストレス、外傷や抜歯、妊娠、生理、薬物などで誘発される⁹⁾
- 血縁者に同様の症状があることが多い(約3/4の症例に家族歴あり)¹⁰⁾

1) 堀内孝彦 他. アレルギー. 2019; 68(8): 919-922

2) Ohsawa I, et al. Ann Allergy Asthma Immunol. 2015; 114(6): 492-498

3) 大澤 勲 編. 難病 遺伝性血管性浮腫(HAE): 医薬ジャーナル社; 2016.

4) Bork K, et al. J Allergy Clin Immunol. 2012; 130(3): 692-697

5) LoCascio EJ, et al. West J Emerg Med. 2010; 11 (4): 391-394

6) Bork K, et al. Am J Med. 2006; 119(3): 267-274

7) Bork K, et al. Am J Gastroenterol. 2006; 101(3): 619-627

8) Eck SL, et al. Am J Gastroenterol. 1993; 88(3): 436-439

9) 一般社団法人日本補体学会HAEガイドライン改訂2014年版. 補体. 2014; 51(2): 24-30

10) Zuraw BL. N Engl J Med. 2008; 359: 1027-1036

思い当たる患者さんがいらっしゃったら、こちらをご覧ください
HAEの詳しい情報が掲載されています

腫れ・腹痛ナビ-PRO

検索



<https://www.harefukutsuu-hae-pro.jp/>

HAEの診断、治療が可能な施設の一覧はこちらのサイトの
「病院検索」でご確認ください

腫れ・腹痛ナビ

検索



<https://www.harefukutsuu-hae.jp/>

鑑別診断の
ポイントも
あります

